

歯科金属アレルギー



歯科金属
アレルギーとは？

何らかの原因で金属を異物として体が反応すること(＝感作)によって、歯科治療で使われている金属に対してアレルギー症状を起こすことです。アクセサリーの不適切な使用等によって感作され、歯科材料に反応することが最近では多くなっています。

【例】詰め物(金歯・銀歯)、差し歯、入れ歯、インプラント、矯正ワイヤーなどの金属に反応。

こんな症状
ありませんか

?

金属アレルギー発症のメカニズムについて

40～50代の女性の患者さんが多く来院されます。最近ではピアスで腫れた経験のある患者さんが多くなってきています。ピアスホールから、金属イオンが体内に入りやすいことが原因の一つと考えられています。また、アレルギーを起こしやすい金属とアレルギーを起こしにくい金属があるので、アクセサリー等の素材選びは慎重に行ってください。

● 口腔内の炎症が
たびたび起こる。



● 手足に赤い斑点や湿疹、水疱ができて、
皮膚科で診てもらっても治らない。



このような症状がある場合、金属アレルギーかもしれません。

金属アレルギーの検査は個人病院では取り扱いが少なく、また、金属アレルギーを専門としている病院が少ないため、県外からも本院へ多数来院されています。

今回は歯科金属によって症状が出現するアレルギーについて紹介します。



■説明は
徳島大学病院
高次歯科診療部(歯科用金属アレルギー部門)
細木 真紀(ほそき まき)助教
■問い合わせ先 / Tel.088-633-7371(外来)

金属アレルギーを起こしやすい金属

さびやすい金属(水銀、ニッケル、コバルト、クロム等)がアレルギーを起こしやすい金属です。中でもニッケルは、ヨーロッパでは装飾品への含有量に規制がある金属です。日本では規制がなく、安い粗悪な材質のアクセサリーも多いため、若年層のピアスの着用は特に注意が必要です。

金属アレルギーを起こしにくい金属

さびにくい金属＝貴金属(銀、金等)、チタン等がアレルギーを起こしにくい金属です。しかしチタン製と表示されていても、合金であったり、周囲にメッキ加工がされていることがあるので、十分に気を付ける必要があります。

男女差・年齢差

女性が圧倒的に多い疾患です。男性では職業で金属を扱う方に多いようです。高齢者では、口腔ケアの不足が原因として疑われます。子どもは金属アレルギーが少なく、アトピー性皮膚炎に関連した症状が多く見られます。

アレルギーが起こるメカニズム

金属製品の着用
(ピアス・指輪など)

汗などで溶けた
金属イオンが体内へ

体が金属を異物と
認識(＝感作)

歯科金属に反応

アレルギー症状発症

治療方法について

問診後、パッチテスト検査を行います。背中に2日間、専用の絆創膏をはって、その後の反応を見ます。汗をかく夏期は行っておりません(7月～8月は中断)。

検査結果を参考にして、現在使用されている歯科金属に陽性の金属が含まれている場合は除去し、患者さんに適した非金属の材料等を選んで治療を行います。患者さん個人に合わせたオーダーメイドの治療を行います。

「一度発症すると治りにくい」と言われているため、感作されないように気をつけることが大事です。少しでもアレルギー症状が出たら、金属を身に付けることをやめ、病院を受診しましょう。

Step
1

問診：医療面接 / 検査：パッチテスト

Step
2

口腔内の陽性金属同定
陽性金属を含む修復物の除去

Step
3

その患者さんにとって、安全な材料による歯科治療